

□ 情報提供項目

プレミアム商品券の販売や各種イベントなど市長からお知らせした。

□ 記者との質疑応答

記者 プレミアム商品券について、昨日の販売数と販売するトータルの数を教えてほしい。

市 昨日の販売数は6,700冊と聞いている。総数は26,500冊である。

記者 11月12日の津波避難訓練について、避難目標地点を導入した初の訓練となったが、改めて良かった点や今後対応すべき点など、総括的な意見を伺いたい。

市 津波避難計画を策定して初めての訓練であった。今回、避難目標地点を設定し、人員の配置や看板を設置した。ある程度周知できたと思うが、目標人数に届かなかった。昨年より参加者は増えたが、伸び悩んだのは残念であった。来年に向けて検討しなければならぬ。非常持出リュックを持っている人も少なく、訓練のための訓練となったという指摘もある。プラスだったのは、自主防災組織の活動で、車いすの方が参加するなど活発であったことである。組織の結成や、日常的に問題意識を持ち活動していただくことが避難訓練の参加者の増や避難の仕方など、かなり効果があると改めて感じた。自主防災組織100%を目指して取り組む必要がある。今後、市が県内でも最大の被害が出る可能性があるという指摘されているが、まだまだ市民の皆さんには、それが届いていないと改めて感じた。意識を持ってもらうため、防災について具体的に各地に展開していきたい。11月30日の夜に、久慈高校の2年生女子生徒5人とふれあいトークを開催し、外国人に対する避難体制の構築について意見交換した。その中の一人が、母と自分はハザードマップを見たが、家族全員が見ていないという話であった。配ったので、皆さんが見ているという反応ではない。市は、ハザードマップの改訂版を作成したが、活用していくためには自主防災組織で集まり内容の説明を受けるなど、丁寧にする必要がある。他にも同じような家庭が多いと思う。自分の家や職場などみんなで話し合い、どのような被害にあう可能性があるのか、知ってもらうまでも課題だと感じている。

記者 より周知徹底の大切さを感じられたようだが、久慈市は他の自治体に比べ、周知をしているような印象を受けた。さらに来年度幅広く周知していくことになるのか。

市 避難目標地点などの理解を深めていただくために、町内会単位で勉強会を重ねていく必要があると、改めて感じたところである。一生懸命活動しているところもあるが、市民に理解いただく難しさを改めて感じている。

記者 避難目標地点は、職員のビブスや看板設置があったと思うが運営はどうであったか。

市 今回は看板をすべて設置していなかったため、市職員がお知らせをしたところもある。避難目標地点の看板を設置していく必要があると思うので検討していきたい。また、そもそも理解いただけていないところもある。今後広報などで周知を徹底していきたい。

記者 日本海溝・千島海溝地震の関係で緊急事業計画を策定したと思うが、湊小学校の改修はどのような事業でどのような進捗事業か。湊小学校以外でもあったら教えてほしい。

市 お話があったとおり、湊小学校で計画している。今後、避難路等の整備が必要になると思われる。検討委員会で検討し、必要であれば計画を登載する。内閣総理大臣の同意が必要にあるので来年度以降となるが、具体的なところはまだない。

記者 湊小学校は、令和8年4月の開設に向けて建設を進めている。どのような避難対応をしたつくりになるのか。

市 まず、津波の指定緊急避難場所にしたいと考えている。その際、避難スペースを設けるということで、設計等している。基本的には福祉の村へ避難だが、時間がなく避難できない人は垂直避難できるように考えている。

建物としては、屋上含め5階建てで、避難階段やスロープを設置している。

記者 発災時には避難場所として活用できるつくりにするのか。

市 そのとおりである。